

新宮山彦ぐるーぷ第2395回

## 行仙宿の巡回整備

◇実施日 10月13日(月) 晴

◇参加者 沖崎吉信、梶野照雄、村吉光夫、湯川一郎 4名

月末のヘリ荷揚げの荷物を準備するため行仙宿に向かった。1. 5mまでの杭を沖崎車に積み込み、村吉さんが用意した鉄筋と鉄パイプも積み込んだ。登山口には「ㄣ」が持つてきてくれたと思われるきれいな丸太が20本ほど置いてあった。モノレールに二人を乗せてコマツハウスに向かう。旧終点で土留板を降ろし、沖崎さんはそこから歩いて登った。



杭を積み込む

ヤマモモに穴あけ

防腐剤を塗る

コマツハウスに着き、村吉さんは水が入った20リッターのタンク

を担いで小屋に向かった。私は湯川君が持ってきたヤマモモの木にドリルで穴を開けた。村吉さんが小屋から戻ってザックと防腐剤を持って再び小屋に。沖崎さんが登ってきたのでシイタケの駒を出してもらい、開けた穴に打ち込んだ。しばらくして湯川君が到着した。我々3人はモノレールで登ったのでまったく知らなかったが、湯川君によると鉄階段に落石があり、水場付近の補給路にイノシシが掘ったとみられる穴が多数、障害になる枯木も多かったそうだ。帰りに補修することにした。順次小屋に向かう。架橋現場では村吉さんが橋桁の板に防腐剤を塗ってくれていた。防腐処理は必要と思っていたので大助かりだ。



気温は20℃

ボルト穴を塞ぐ

本日の参加者

小屋に着いて、先日作ったベンチのボルト穴をシーリング剤で埋め、小屋内のハンガーを掛けてあるビニール紐をワイヤーロープに交換した。ストープに近い位置に真直ぐ張ったので、濡れた物が乾きやすくなるだろう。ワイヤーロープ取り付けに発電機を動かしたの

で、掃除機で床の掃除をした。12時になり昼食を摂る。食後、後片付けをしてごみを集めて下山。架橋現場で写真を撮って、今日は行仙宿に泊まって作業の続きをする村吉さんと別れ補給路の補修に向かった。



水場付近を補修

水場は健在

川島さんの慰霊碑横にモノレールを停め、くい丸や鉄筋、トンガ、ハンマーなどを持って水場付近まで降りた。枯木が5〜6本道を塞いでいた。大きな穴が二つ、谷側の路肩も崩れている。水場下の補修は沖崎、湯川の二人で、水場上の穴埋めは梶野が担当した。補修が終わり、残った鉄筋などを持ってモノレール迄登って下山した。

(記：梶野)

昼ご飯を食べてから、午前に続き『上の峪』に梶野さんが架けられた橋に防腐剤塗りをした。せっかく大仕事で架けられた橋なので永持ちしてほしい。橋の裏面に2回、表面は1回塗って1時過ぎに

塗り終わった。次は防腐丸太を山頂に運ぶ。1時30分に小屋を出発し、行仙山頂着が2時1分。前回より6分短縮できた。戻りながら、途中の補修すべき箇所を考える。久しぶりの道普請なので手始めは簡易な所を選ぶ。小屋から防腐丸太を1本、普請場所まで運び立ち木を杭止めにして丸太を寝かし、石を集めて踏み場所を均して終る筈だったが、実際には見込みよりも丸太の下の隙間が大きく、石が抜けてしまう。石集めも時間がかかり、4時頃に強い風が吹き始め体が冷えてきたので今日はここまで。

10月14日(火) 薄曇り

昨夕の強風は深夜に止んだ。風の音に加えて風に落とされた木の実や枝が屋根に当たる音で寝付けなかった。

今朝の朝日はとても赤い。木の葉を抜けた光がそこら中に赤い色付けをしている。太陽も既にながって山から離れているのに、まるで深紅のマントを纏ったように周りが赤く染まっていた。7時4分に1回目の丸太運びに出発。時には立ち止まりたくなる事もあるけど「止まったら昨日より遅くなる」と思うと止まれない。昔から運動会は苦手だったけど、昨日の自分には勝つてみたい。立ち止まることなく山頂に33分に到着。ついに30分を切った。でもこの後の2回目は32分だった。次は昨日やり残した道の補修。小屋から132cmに切った丸太を運び、昨日の丸太の下に入れて杭を打ち、石が抜けないようにした。さらに近くで石集めをして歩きやすく均して完工。昼ご飯を食べて小屋を離れたのが1時過ぎ。次は登山口に置かれている丸棒(丸太を均一な太さに加工した物)に防腐剤塗りだ。沖崎さんも知らないうちに置かれていた物で「電源開発の

進呈だろう」との事。23本もあり防腐剤が無くなったら終わりだ、  
と思いながら塗っていたら3時前に全部に塗り終えた。(記：村吉)

## 行動タイム

09：00 補給路登山口 09：36→10：00 コマツハウス 11：03→11：14  
行仙宿 12：57→13：08 コマツハウス→13：45 水場上→14：15 補給  
路登山口